

Vol.99 No1
2008.6.20

農職組ニュース

茨城大学農学部
労働組合

第99期執行部です

2008年6月から1年間、どうぞよろしくお願ひいたします

執行委員長&過半数代表者（阿見） 中村 豊

国立大学が法人化されて4年が経過し、その間、法人化による労働環境の変化のために生じたさまざまな問題についての対処が求められてきました。当組合では、組合員同士が団結して労働条件を向上していくことが基本的な目標であるとし、これに沿って絶えずしかるべき活動を続けてきているところです。

この度、第2期中期目標期間における国立大学法人運営交付金の配分に関する「見直しの方向性」が文科省より示されました（全大教、第227号）。すでにご承知のこととは思いますが、その内容は次のようです。①第1期中期目標期間における各大学の努力と成果を評価し、資源配分に適切に反映させることを通じ、競争的環境を醸成し各大学の切磋琢磨を促す。②第2期中期目標期間を通じ機動的に各大学の改革を支援し、教育研究水準の向上等に向けた各大学の継続的な努力や、大学の多様化、機能別分化を促す。③各大学の特性・状況に配慮しつつ、大学の効率化を促す。昨年、小林前執行委員長が、“国立大学でも競争、成果主義、社会貢献などという言葉が当たり前になりつつある（農職組ニュース、Vol.98 No.1）”と指摘していたように、大学に対する評価や要求が、一層、厳しくなっていくような気がします。

このような中で、発足以来、築き上げられてきた農学部労働組合の実績と精神を礎とし、組合員のよりよい労働条件の継続的な確保を目指すことはもとより、大学の発展に十分に寄与できるような条件を整備することが重要と考えられます。教職員の皆さんには、組合へのより多数の方々の参画を期待し、かつその活動の促進のためにご支援とご協力をお願いする次第です。



副執行委員長 西原宏史

職場としての大学について考えてみると、法人化以降、明るいことがあまり見当たらなくなったように思います。経費節減の理由で人が減らされ、生涯賃金も減らされ、かといって研究費が確保されたり、施設環境が快適になったわけではありません。大学は外部評価におびえて中期計画の達成が第1の目標となった様子で、「こんなことまで本当に必要なのか？」ということに多くの労力と時間をとられるようになりました。それでも無理しなければ、「業務評価」が悪くなるかも知れません。これで本当に、魅力ある大学になっていくのでしょうか？そこで働く者がもっと希望をもてるよう、労働条件や労働環境の悪化を防ぎ、改善につながる努力をしたいと思います。



労働安全衛生委員

(組合代表)

書記長 長澤 淳

書記を務めることになりました。右も左もわかりませんが、精一杯務めようと思います。よろしくお祈りいたします。

庶務委員 (情宣) 橋本浩平

今期、執行委員になりました橋本です。本学に赴任してまだ2年ということもあり、わからない事も多くご迷惑をおかけするかもしれませんが、どうぞご指導のほどお願いいたします。

通常はF Sセンターの圃場で仕事をしている事が多いですが、もしお立ち寄りの時は声をかけてください。



庶務委員 (会計) 柴原英子

継続雇用でまたお世話になることになり、第99期執行部で会計を担当することになりました。

現在の組合は組合費値下げで収入減となり、財政にひびいてきています。これから「節約」ということも考えて行かなければなりません。

皆様どうぞご協力のほどよろしくお祈りいたします。